

## 函館から東京へ 大野に

函館に生まれ本名を澤田鉄三郎という。

若松高等小学校を卒業後、函館商船学校に学んだが中退して大正10年(1921)に貨物船の船員となった。心臓発作で船を降りる。労働運動に携わり官憲に睨まれる。

昭和4年(1929)、27歳で上京、様々な仕事で生計を立てながら画業に打ち込む。

同6年、「週刊朝日」の懸賞漫画に入選。翌年、新漫画派集団に加わり、近藤日出造、杉浦幸雄、横山隆一らと共に活躍。

同13年に村田昌氏と結婚。

同15年には児童文学賞を受ける。

同20年、東京大空襲で大野村(現北斗市本町)に疎開する。

同21年、新聞社に入社を約束されていたが42歳の若さで他界。

\*戦時中、戦争賛美に迎合せず動物や昆虫の本を著した。



居宅跡の説明板

## 龍の主な著作

- ◆昭和11年(1936)、漫画「太郎と蝶子」が『コードモノクニ』に掲載
- ◆同15年、絵本『オ山ノコグマ』著
- ◆同16年、『昆虫放談』著、この本は5度出版している。
- ◆同17年、小説『黒い貨物船』著
- ◆同18年、装丁『牛をつないだ樁の木』、著者は新美南吉
- ◆同年、絵本「うさぎの手紙」著
- ◆同19年、科学読み物『昆虫たちの國』著
- ◆同20年、観察記録『昆虫日記』著
- ◆同21年、絵本『一茶絵本』著
- ◆同年、漫画「きつねくんとたぬきくん」が『週刊朝日』に掲載

◇平成10年、龍の残した「終戦日記」を子息の洋太郎氏が編集し冊子にする。

ユーモアたっぷりに表現された『昆虫放談』は徳川夢声が愛読した。

ラジオ放送もされたことから“○○放談”の言葉がはやったという。後の漫画家手塚治虫も影響を受けた。

世界110人のイラストレーターに選ばれる

『絵本の世界・110人のイラストレーター』(堀内誠一編)  
昭和59年(1984)発刊  
北斗市郷土資料館所蔵

紹介された日本人14人の中に小山内が選ばれ、「飄々たるユーモア」の見出しで絵が載っている。

『黒い貨物船』、『山からきたくまさん』、『オヤマノカキノキ』、『海のふるさと』、『家畜物語』の一部が紹介されている。

### 北斗市郷土資料館

『昆虫放談』、『昆虫たちの國』、『昆虫日記』、またコピー『オ山ノコグマ』、『一茶絵本』など所蔵

### 大野の動き

◎昭和45年(1970)、『大野町史』に初めて小山内龍を紹介

◎同9年(1997)、大野町広報で紹介

◎同年、居宅跡近くに説明板設置(町教委)

◎同18年、『新大野町史』人物掲載